

2017年度の資金運用結果について

2017年度の世界経済は、力強い景気拡大を果たした米国や欧州、また高い成長を持続した中国経済が牽引役となって、先進国、新興国が広くともに成長を遂げる世界同時成長を実現しました。こうしたなか、日本経済も潜在成長率を上回る成長を持続しましたが、国内物価が緩慢な上昇にとどまったことから、長期金利はマイナス金利を脱したもののゼロ金利近辺で推移、為替相場も1ドル=114円台から105円台という狭いレンジ内での推移となる投資環境のもとでの資金運用となりました。

このような投資環境において、本学では「2017年度資金運用方針」に基づき資金運用に臨み、2017年度の運用収益は約5.5億円（利回りは約1.5%）となりました。

以下に2017年度の運用結果について簡単にご報告いたします。

1 国内債券

国内債券については、将来の金利上昇を考慮しつつ、中期ゾーン（期間3～5年）でラダー型ポートフォリオ（注1）を構築することを基本とし、一部利回り確保の観点から長期債を購入しました。また、グリーンボンド（環境債：注2）への投資を行ない、ESG投資（注3）への取組みも開始しました。

国内債券による運用収益は、約1.8億円（利回り約0.7%）となりました。

（注1）各償還年限の割合が均等となる銘柄から構成されるポートフォリオ

（注2）温暖化対策や環境プロジェクトなど環境保全に用途を限定した債券

（注3）環境保全（Environment）、社会的責任（Social）、企業統治（Governance）に配慮している企業等を重視・選別して行う投資手法

2 外国債券

外国債券については、将来の為替動向を考慮しつつ、中・長期ゾーン（期間3～10年）でラダー型ポートフォリオを構築しました。基準為替レートを上回る円高・ドル安水準時に新規購入することを基本とし、償還債券の再投資については償還額の範囲内で購入しました。

外国債券による運用収益は、償還による為替差益を含めて約3.0億円（利回り約4.5%）となりました。

3 国内株式

国内株式による運用収益は、約0.3億円（利回り約5.7%）となりました。

4 その他

保有している仕組債等による運用収益は、約0.4億円（利回り約0.8%）となりました。

以上